

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	地域高規格道路 西関東連絡道路 一般国道140号 皆野～秩父バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	埼玉県	
起終点	自：埼玉県秩父郡皆野町大字皆野 至：埼玉県秩父市蒔田	延長	4.9km			
事業概要 一般国道140号皆野～秩父バイパスは、西秩父地域のアクセス強化と秩父市街地の交通渋滞の緩和を目的とした4車線（暫定2車線）バイパス事業であり、関越自動車道・花園ICと山梨県甲府市の新山梨環状道路を結ぶ地域高規格道路「西関東連絡道路」の一部を構成するものである。						
平成14年度事業化		平成15年度用地着手		平成16年度工事着手		
全体事業費	170億円	事業進捗率	85%	供用済延長	0.7km	
計画交通量	7,200台/日					
費用対効果 分析結果	B / C (事業全体)	1.2	総費用 (残事業)/(事業全体)	47/216 億円		
	(残事業)	5.7	(事業費)	21/190 億円		
			維持管理費	26/ 26 億円		
総便益 (残事業)/(事業全体)	269/269 億円		走行時間短縮便益	235/235億円		
			走行経費減少便益	29/ 29億円		
			交通事故減少便益	5.7/ 5.7億円		
基準年	平成25年					
感度分析の結果 (事業全体) 交通量 : B/C=1.0~1.4 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C=5.4~6.0(交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.2~1.4 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C=5.5~6.9(事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.2~1.4 (事業期間±1年) 事業期間 : B/C=4.3~6.3(事業期間±1年)						
事業の効果等 ・現道や周辺道路の交通渋滞が緩和され、路線バスの定時制が向上 ・高速道路ICとのアクセス性が向上し、観光客の増加による秩父地域の活性化に寄与 ・緊急輸送道路の位置づけられることで、災害時の効率的な緊急輸送に寄与						
関係する地方公共団体等の意見 ・地元首長、議長等で構成される秩父地域基幹道路建設促進議員連盟から、早期整備の要望を受けている。						
事業評価監視委員会の意見 ・事業継続とした県の対応方針（案）を了承する。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・国道140号皆野寄居バイパスの全線開通および観光目的の交通の増加のため、秩父市街地における交通渋滞が慢性化しており、本バイパスの必要性は高まっている。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成22年度に新皆野橋が完成し、一部区間の供用を開始。 ・用地買収は平成25年度に完了、平成28年度の暫定2車線開通に向け、トンネルや橋りょう工事を推進。 ・事業進捗率：85%、用地進捗率：100%となっている。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・引き続き残りのトンネルや橋梁等の工事を推進する。平成25年度は橋梁工事3箇所に着手し、平成26年度からは全線で工事を展開する予定であり、平成28年度に全線開通する見込みである。						
施設の構造や工法の変更等 ・地域高規格道の構造要件緩和（H15）に伴い、構造規格（幅員縮小・設計速度の低減）やルート、縦断線形等を変更し、工事費及び用地補償費についてコスト縮減を図っている。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由 以上の事業の効果及びコスト縮減の内容、事業評価監視委員会の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						
事業概要図 						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。